

バイオクライマティックデザイン小委員会 第1回 議事録

5 A. 日時 2006年4月24日 火曜日 17:00~20:15

B. 場所 建築会館 202 会議室

10 C. 出席者 浅田秀男(アーキテック・コンサルティング)、宇野朋子(東京文化財研)、岡本幹太郎(日本設計)、
小玉祐一郎(神戸芸術工科大)、斉藤雅也(札幌市立高専)、菅原正則(宮城教育大)、
鈴木晶子(首都大東京 須永研)、須永修通(首都大東京)、堤純一郎(琉球大)、
パノバ・ツヴェテリナ(東京工業大梅干野研)、深澤たまき(首都大東京 須永研)、
横田歩(首都大東京 須永研)
: 12名(敬称略、50音順)

15

D. 資料 1 - 1 バイオクライマティックデザイン小委員会 第6回(2005年度) 議事録案/菅原
1 - 2 2006熱シンポ企画案(第二案 Ver.8)/須永
1 - 3 2006年熱シンポジウム(沖縄)企画案/堤
1 - 4 2006年熱シンポのメモ/斉藤
20 1 - 5 12の環境技術 日本設計 Sustain Able Design/岡本
1 - 6 空気調和・衛生工学 2004年、No.9「沖縄特集」の概要のページ/小玉

20

E. 審議事項

1) 前回議事録確認

25 前回議事録案(資料1-1)は、承認された。

2) 来年度の熱シンポ企画

各セッションの担当者から準備状況やセッションの内容案(資料1-2)について説明してもらい、確認することになった。

30 まず、堤委員から、標記のセッション1および見学会(資料1-3)について説明があった。これに対して、次のような意見交換があった。

(小玉)セッション1の2)では、かりゆしウェアが空間作りや冷房に対する価値観をどう変えたかが
35 おもしろい。3)では、要素技術をやってもだめで、作り手のポリシーがどのように建築に反映したかが見えれば良い。清水、安藤、赤嶺などの建築家が面白いのではないか?

見学会について、11/8の午後は名護市庁舎と備瀬のフクギ並木と海洋博公園(伝統住宅のモデル)を中心にし、可能であればプセナテラスホテルと外人住宅と基地内住宅を加えた行程で検討することになった。
40 11/9の午前糸満市庁舎と首里の石畳で検討することになった。これらのバス手配等や参加申し込み受付等の事務作業は、現地の旅行会社(日本旅行?)へ依頼することになった。シンポ会場は、おきでんホールに再度交渉することになった。以上は堤委員が作業を行う。

齊藤委員から、標記のセッション2(資料1-4)について説明があった。これに対して、次のような意見交換があった。

45

(小玉)冷房をどう扱うかの問題を中心に日本やアジアにおける夏の住まいのあり方を広く議論しては
どうか?

(堤)東南アジアの建物は過剰冷房となっていて非常に寒い。この現状の今後の方向性を知りたい。

50 菅原委員から、標記のセッション3について説明があった。これに対して、次のような意見交換があった。

(小玉) このテーマは夏と冬のモード変換をどのようにするかだと思う。ハウスメーカーのこういった人を議論に巻き込むのが難しい。

- 5 セッション4については現場でバイオクライマティックデザインができるのかどうかの議論を、またセッション5については今日の結論を受けての方向性を要望することになった。
各セッションの担当者は、今日の議論を受けて更新したものを5/15までに須永主査に報告することになった。シンポジウムのタイトルは、宿題としてメールで意見交換することになった。

10 3) 日建設計の環境建築

岡本委員から、標記(資料1-5)について説明があった。これに対して、次のような意見交換があった。

- 15 (須永) きらら元気ドームは以前、作品選奨の審査に行ったことがある。膜構造の屋根に散水する仕組みがあるが、放水銃を使っているので水が均一に広がらず溝に流れ込んでしまっていた。散水弁を用いると改善される。クールチューブや管理者の教育は素晴らしい。
(斉藤) 雪冷房について雪質が違っているとランニングコストにも響いてくるのではないかと？

4) その他

- 20 小玉委員から、空気調和・衛生工学会で沖縄特集したときの記事(資料1-6)の紹介があった。学生参加者(パノバ、深澤、鈴木、横田)の自己紹介があった。
須永主査から、委員会の話題提供を広く公開したいとの提案があった。なるべく早いうちにMLへ送信し、またその中に公開する旨の文を書き加えることになった。

- 25 F. 次回委員会予定 日時: 6月 26日(月) 17:00~19:00
場所: 建築会館会議室
内容: 小玉委員から「iNTA2006 参加報告」についての話題提供、熱シンポジウムの企画など

- 30 内容は次のものを順次取り上げる。
1. 鈴木(大)委員から北総研建物について
 2. 環境設備で入りにくい部分についてのディスカッション(廣谷+鈴木(信)、野沢?)
 3. 鈴木委員、武山委員から、OMソーラー協会本社について
 4. 田中直樹氏「蓄熱材利用の混構造住宅(静戸の家:日本建築学会東北建築賞作品奨励賞)」
 - 35 5. 長谷川委員から、断熱改修住宅の環境測定

以上